

平成 30 年度

事業所名 : グループホームぽっかぽか花巻中央

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500056		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホームぽっかぽか花巻中央		
所在地	岩手県花巻市南万丁目1163-3		
自己評価作成日	平成30年10月30日	評価結果市町村受理日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390500056-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく朗らかで親しみやすい雰囲気、「ぽっかぽか」の名に相応しい場所であるよう心掛けている。「利用者様、ご家族様の願いを叶える」という理念の下、その方これまでの暮らし、性格、趣味、能力を活かし、役割や遣り甲斐、楽しみのある生活が送れるような支援を行っている。今年度は主に「季節を楽しみ笑顔になろう」をテーマに掲げ、利用者の笑顔や能力を引き出せるよう取り組んでいる。畑で採れた夏野菜を収穫し喜び、旬の食材を使っておやつを作ったり、地域の行事にも積極的に参加している。職員に創作活動の企画をしてもらい、毎月季節をテーマにした作品をご利用者様と一緒に取り組んでいる。良いチームケアのため職員間のコミュニケーションを大切に、併設の小規模多機能との日常的な交流、合同行事の企画、兼務体制の強化に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の実現に向け、毎年度ホームのテーマ(本年度は、「チームワークで季節を楽しみ笑顔になろう」)を設定し、個別ケアの実践に取り組んでいる。地域の文化祭などの各種行事に参画するとともに、近くの保育園児や踊りサークルなどとは、敬老会などで積極的に交流し、事業所への理解を深めてもらう工夫と努力を重ねている。また、普段の散歩や近くのコンビニ、馴染みの店に出かけることも利用者の楽しみの一つとなっている。こうした「出かけての触れ合いや訪問を受けての交流」が利用者の笑顔に繋がっている。毎月、請求書に合わせて介護計画・通院状況・今月の様子を一枚にまとめ家族に丁寧にお知らせし、意見・要望等にも繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 30 年度

事業所名 : グループホームぽっかぽか花巻中央

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「願いを叶える」という法人理念に沿って職員育成を行っている。月例ミーティング、日頃の申し送りにおいて「利用者主体のケア」について実践するよう努めている。認知症介護の基本も重要ななっているので日頃から話し合っている。	法人理念を「ホームの理念」として共有し、実践に努めている。理念の下に、毎年度、ホームのテーマ(本年度は季節を楽しみ笑顔になろう)を設定し、職員一丸となってケアプランと連動させたステップアップを図る取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	親交会に所属し総会や季節の行事には積極的に参加している他、地域一斉清掃や資源回収にも協力している。文化祭には作品を出品も行っている。子供会とも連絡を取り交流を行っている。	地域の文化祭に作品展示する等、各種行事に参画しながら交流を重ねている。敬老会には保育園児が、伝統芸能では小中学生が来訪、交流している。今後、近隣の皆さんと交流する行事(バーベキュー等)を企画したいとしている。	運営推進会議や職員のアイデアと協力を得ながら、ホームの地域理解を、より広め・深めるための可能な行事等の検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学時や申込み、相談があった際には、困っているご本人や家族の気持ちに添い、認知症の基本的な知識やケア、環境の大切さ等を事業所の方針と交えて説明している。家族会や運営推進会議の場においても同様に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月ごとに開催。季節の行事や日々の活動報告、実績報告、避難訓練や事故報告、勉強会報告等を行い地域の代表者から意見や地域の行事等の情報を得ている。	時々会議テーマに応じて、消防や警察など関係の方もお招きしながら、より有意義な会議となるように工夫している。委員から「地域との交流をどう広め深めるか」の課題が提起され、小学校、中学校の学習発表会に参加することが出来ないか検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい意見交換をしている。運営上の疑問点はその都度確認し、地域住民から率直な市民の意見も聞いてもらい、地域で協力体制を築いていけるよう働きかけや困難事例の相談や介護保険外のサービスについての情報をもたったりしている。	定例の運営推進会議や地域の福祉関係者会議参加の際に、意見交換、指導・助言などを得ている。普段は電話で連絡を取り合うほか、介護関係書類を持参・提出する際にも制度や運営状況等について情報交換等を行なうなど、円滑円満な関係となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職人には入社時のオリエンテーションにてパンフレットを用いて説明し周知させ、職員は身体拘束状況やその対策について勉強会を開いている。日頃から玄関や扉の施錠はせずに職員は連携を図りながら利用者様の声掛けや見守りを行い、拘束は行わない姿勢をおこなっている。	職員採用時に研修(スピーチロック含む具体的事例)を行なうほか、ホームでは、月例のミーティングで職員全員で事例研究等を通じ拘束内容の確認・共有をし合っている。玄関の施錠は、夜間の防犯対策を除き行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止について勉強会を行い、職員同士確認を行っている。見過ごされる事の無いよう声を掛け合い、先輩スタッフから新人スタッフへの教育を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はそうした制度に触れる機会もなく、理解が出来ていない。学ぶ機会をもてるようにしたいが、制度が複雑な為、指導できる者がいないのが現状。今後研修会を開けるよう検討中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービスの内容、重要事項、料金等の説明を十分に行い、ご本人、ご家族様の不安や疑問点を解消してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の生活に関する報告の中で要望等があれば何うようにしている。また運営推進会議や家族会に参加してもらい、実績、活動報告、事故報告等をし意見を聞き取りたいが、参加出来る家族が限られている。	面会時や行事参加、家族会議開催時には、意見や要望を聴いている。毎月、ホームから利用者の生活状況や職員からのお便りを通して家族に問いかけし、意見や要望につなげる工夫をしている。出された意見等はないとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談等をこまめに実施できるのが望ましいが時間が取れないため、アンケートをとったり、日々の雑談の中で気軽に意見を求める等している。またできる限り職員と共に業務につき現状把握に努めている。	月例のミーティングだけではなく、申し送りの際も、お互いに意見を出し合う機会としている。「男性職員の洗濯の仕方」についての提案があるなど、職員は相談・連絡・報告を徹底するなかで、積極的かつ前向きな運営とケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には職能評価を実施し得意な事、苦手な事など明らかにしている。意欲、能力のある職員に対しては具体的な目標を共に掲げるようにし遣りがいを感じられるよう努めている。職場に対する意見や提案を聞き入れる場として職員にアンケートや面談を持つこともある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月関心のあるテーマに関して勉強会を開催している他、隔月では事例検討会も開催。また内部研修会において知識やスキルの習得が出来る様にする他、外部で開催される講習会にも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の他事業所職員との意見交換等ができるよう季節の行事等には職員が交代で参加できるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族や親類等関係機関からご本人の困っている事や健康状態のほか、生活習慣や楽しみを把握するよう努めている。職員にはご本人が安心出来る環境と耳を傾け寄り添い環境と関係作りを指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談の段階で、誰がどのように困っているか不安、何を求めているのか話を聞き要望を伺うようにしている。また介護計画書には、ご本人とご家族の意向が反映されている。初期の段階では丁寧に連絡を取り合うように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能と考える問題であれば、当法人内のケアマネージャーにも同席や相談を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物、調理や盛り付け、食器の片付、洗濯物を置くなどの家事仕事を利用者と共にやっている。また郷土料理、裁縫など生活歴を生かした取り組みから、お互いに学んだり支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、ご家族から意向を聞き取るようにしている他、面会時や介護計画書の中で普段の利用者様の様子について伝え、暮らし方や本人の状態について理解してもらうよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族より了解を得たうえで馴染みの方の面会、電話等を受け入れている。また行きつけの美容院、地域の催し物などに外出する機会を設けるようにしている。	娘さんや息子さんなどの家族が来訪し居室やリビングホールでお茶を飲みながら、楽しい時間を過ごしている。家族の協力を得て馴染みのパーマ屋さん、食事に出かけている。今後も、介護を通して得た気づきをよりよい支援に繋げたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士でレクリエーションを行ったり外出が出来るように配慮している。また認知症がある利用者様が孤立しないよう、利用者様同士の会話に職員が間に入り関わりを大切にするように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方からの相談も受け入れ繋がりが切れないようにしている。季節の行事やレクリエーションに参加してもらったりして職員や利用者様との関係が継続できて喜んでもらえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族よりお話を聞き、ご本人らしく過ごして貰えるよう、希望に添えるよう努めている。生活歴から想像したり、なじみの場所に足を運んでみる等の工夫を行っている。	本人本位を基本にして、利用者の思いに沿った暮らしが出来るよう支援に努めている。お話しが出来ない方は、声や表情、態度や行動などから推察し支援に当たっている。帰宅願望の方には希望に沿って自宅を訪問している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際、今までの生活の様子をご家族・ご本人から話を丁寧に聞くようにしている。また生活習慣について、地域・家族との人間関係、サービス利用時の様子なども把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りでその日の様子、月例ミーティングで1か月の様子を振り返り、把握に努めている。日々、職員と利用者様との関わりを多く持つように声かけを行い、機能低下や精神状態等の変化があれば気が付くように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例ミーティングで全職員の意見も取り入れた上で介護サービス計画書を作成している。修正の必要があればご本人、ご家族に相談し了承を得た上で改正している。計画書は毎月ご家族へ送付し意見を伺っている。	毎月のモニタリングは職員全員で行い、計画作成担当者は、容態急変時には随時、定例には6か月ごとに、プランを作成・見直している。職員の「気づきシート」により、アイデアや意見などを多く得ながら、見直しプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別や申し送りノートを活用している。ヒヤリハット、レク・外出記録も必要時に記録している。ミーティングでそれらを振り返り、職員で再確認するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院対応がご家族の負担になることも多いと考え、原則事業所に対応行っている。また外出や外泊、家族がホームに泊まる事も出来る旨を伝え、ご本人と家族の個別のニーズにも応えられるよう、努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人らしく過ごして貰えるよう、ご本人・ご家族よりお話を聞き、希望に添えるよう努めている。生活歴から想像したり、なじみの場所へ足を運ぶ等の工夫を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	アセスメントの際、今までの生活の様子をご家族・ご本人から話を丁寧に聞いている。また生活習慣について、地域・家族との人間関係、サービス利用時の様子なども把握するようにしている。	家族等の希望するかかりつけ医となっている。市内の医療機関での定期受診には、職員が同行しており、病状や治療の状況などによって家族の同行もある。普段の健康管理は、職員看護師と介護職員が行っている。かかりつけ薬局が薬の配達や飲み方等の相談に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送りでその日の様子、月例ミーティングで1か月の様子を振り返り、把握に努めている。日々、職員と利用者様との関わりを多く持つように指導し、その中から機能低下や精神状態等の変化があればスタッフ同士声を掛け合い気が付くように心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月例ミーティングで全職員の意見も取り入れた上で介護サービス計画書を作成している。修正の必要があればご本人、ご家族に相談し了承を得た上で改正している。計画書は毎月ご家族へ送付し意見を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個別申し送りノートを活用している。またヒヤリハット、レク・外出記録も必要時に記録している。ミーティングでそれらを振り返り、職員で再確認するように努めている。	ホームの終末期や看取りについての考え方（看取りは出来ないが、転所先については家族等の意向に沿った方向で話し合う）を説明し、同意を得ている。今後は、終末期等対応について、職員のスキルアップを図りたいとしている。	利用者・家族の安心安堵、職員の安心に向け、終末期等対応について、職員の知識習得とスキルアップを図る取り組み（研修等）を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	通院対応がご家族の負担になることも多いと考え、原則事業所で対応している。心肺蘇生の講習や月例ミーティング、勉強会を行い初期対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回開催し、火災や地震が起きた時の避難誘導等を実施している。訓練には消防職員や地域民生委員等にも見学に来てもらい意見を貰っている。	年2回の総合避難訓練を行っている。訓練には、運営推進会議委員や近隣の方も参加しているが近隣の協力体制はまだ出来ておらず、課題となっている。「1人で階段から降ろす方法」について消防署から指導を受けることとしている。	ホームが2階ということから、避難には難しさがあり、より確実な地域の方の応援が望まれる。避難方法の研究と早急な地域の協力体制の構築を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室やトイレ、入浴の際の日常的なケアにおいては、利用者様のプライバシーに配慮して行っている。業務報告などの際も、利用者様が気にしない様に個人名を出さずにする等の工夫を行っている。	人生の先輩ということから、食事の作り方などを「教わる」姿勢、先輩の知恵を引き出す気持ちで対応している。居室に入る際はノックするなどプライバシーに配慮し、さん付けで呼び合うなか利用者が嫌な気持ちにならないよう注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声や仕草による意思の表出を汲み取り、ゆっくりと話ができる時間を設けるように努めている。自己決定においても、利用者様を急かす事のない対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活のリズムを尊重し可能な限り対応している。外出やレクリエーションへの参加は無理強いをせず本人の意識を促す対応に留めている。参加を拒まれた場合にはその理由や対応方法、改善案などを職員で考え共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を共に選んだり、衣服を購入する際には一緒に買い物している。美容室などは、行きつけがあれば可能な限り継続して利用している。身だしなみへの意識が弱くなっていくので、その方に合わせて必要な支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行うほか、おやつや季節の料理を一緒に作っていただいている。昼食は利用者様と一緒に取り会話をしながら食事を行っている。畑で採れたものを使うなど、食材にも関心を持って貰っている。	配食サービスを利用しており、ホームではご飯と味噌汁を作っている。利用者は、味噌汁の具材の下拵えや味見、片付けやテーブル拭きなどに参加しながら、職員と一緒に食べている。皆で外食したり、おやつ作りをしながら楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量に配慮が必要な利用者様については、声掛けや見守り、介助を行い食事の量などを記録に残している。また、各利用者様の状況に応じて、硬さや大きさなどに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後もしくは就寝前に、各利用者様に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じ歯科受診を行い、義歯や口腔衛生のなど口腔状態を良好に保つよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄リズムを把握し、トイレへの誘導を行っている。排泄リズムを自身で把握できない方に関しても声掛けを行い、出来る限りオムツへの移行のないように支援している。	介護用品を付けている利用者が多い中、排泄チェック表を活用し、声掛けをしながら、夜間を含めてトイレでの排泄に努めている。可能な限り、機能の低下を防ぎたいとの願いから、職員は細やかな見守り、声掛け、寄り添いを続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、果物などの食物繊維の多い食品を毎日摂れるよう献立に組み込んでいる。また、水分不足にならないよう、補給の時間を設けている他、運動不足にならないように運動する機会を設けるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を勧めながらも、時間帯などを利用者様の希望に沿う形で支援するよう心掛けている。	基本は、午前中に入浴としているが、利用者の体調や気分によって、午後や後日に変更する等柔軟に対応している。身体状況によっては、併設の小規模多機能ホームの入浴設備を利用したり、時には柚子湯などで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない利用者様については、無理強いをせず、話を聞くなどの安心してもらえるように対応している。日頃から日中の活動を増やすなど心掛けている。昼寝を希望される方は時間帯を縛らず、休んで貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬のファイルを設置し常時確認できるようにしている。変更があれば目的、用法、注意点などを申し送り、情報共有している。薬セット、内服介助、終了の際には職員が複数回チェックを行い、誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、趣味活動やレクリエーションを用意し楽しみを持って貰えるように心掛けている。また自立支援の姿勢を取り、出来る事はなるべく本人にやって貰う事で、意欲を維持し、状態が低下しない様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿えるように外出支援を行うよう努め、散歩やドライブなどを行っている。また、地域の催し物へのお誘い等外出の機会を積極的に作るよう心掛けている。	利用者の体調や天候をみながら、普段は、ホーム周辺の散歩をしたり、家庭菜園や近隣風景を眺めたり、外気浴も楽しんでいる。花見や田んぼアート、花巻祭り見学や紅葉狩りなど季節毎のドライブや家族との外食にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にてお小遣いをお預かりし管理しているが、ご本人の希望とご家族の同意の下、ご本人の好きなお菓子やコーヒーを買ったり、お土産を買う等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの了承を得た上で、今までのなじみの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。また、手紙の返事や年賀状を書いたりする支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの明るさや室温、湿度、職員の足音や話声が不適切ではないか注意している。トイレの臭いも気になるので清潔を保つように配慮をしている。リビングには季節感のある創作物や行事の時の写真を飾るなどして装飾し、無機質にならない様に気を付けている。	利用者が作成した、季節の風景等の貼り絵や塗り絵が展示されていたり、行事のスナップ写真、季節の花が飾られて、気持ちの良い空間となっており、窓からの眺めもよく開放感がある。清掃が毎日行なわれ気になる臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりの和室や食卓以外の場所でも過ごせるよう椅子を置いたり昼寝用座布団を置いたりしている。ベランダ前は大きな窓があるため景色を見ながら利用者様同士やスタッフとゆっくりお話することも多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の際には、ご家族に使い慣れた馴染みの調度品を持参して貰うようにお話し、ご家族とご本人、職員が一緒になって片付けや飾りつけをし居心地良く暮らせるように工夫している。職員からの色紙やカード、家族の写真なども飾っている。	使い慣れたタンスや時計、鏡台のほか、カレンダーや家族の写真、縫いぐるみなど思い出の品物を持ち込み部屋を飾って楽しんでいく。衣替えは、家族が持ち込んだものを職員が時季をみて入れ替えをし、きちんと整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や玄関にはスロープや手すりを設置し、ベットには介助バーを取り付け安全の確保と自立の促進に努めている。1階と2階の移動には階段とエレベーターがあり、利用者の能力や状態に合わせて使用している。		